

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名： **岡山大学病院**

部局長名： **榎野 博史**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 教育面では、病院の理念に掲げている「優れた医療人の育成」の実践として、引き続き学部学生、大学院生、研修医、看護師、医療技術職員等の教育環境等の改善整備及び医療スタッフに対する研修の充実を図るとともに、連携のとれたチーム医療のための研修を実施してレベルアップを図る。	<p>1)教育面では、主に次のような成果をあげることができた。</p> <p>①医科は新規採用時のオリエンテーションで、医療人としての倫理等の教育を行うとともに、医療安全に関する知識を身につけるための研修を行った。</p> <p>②医科では、主に外科系の学生教育の充実のために、外科系指導者養成講習会を6月に実施した。また、卒業臨床研修指導者育成を目的とした指導者養成講習会を医科では2月に実施し、歯科では11月に実施した。</p> <p>③歯科は、9月に開催された岡山歯学会に併せて、歯科衛生士及び歯科技工士のための多職種連携研修会として、「歯科衛生士セッション」及び「歯科技工士セッション」を行った。また、他大学病院との交流として、歯科衛生士及び歯科技工士の学外研修を実施するとともに、日本歯周学会認定歯科衛生士取得のために10月に技能研修、11月に講習会を実施した。</p> <p>④臨床研究に関する医療スタッフへの研修として、AMED(日本医療研究開発機構)とは医師1名、歯科医師1名、事務職1名、またPMDA(医薬品医療機器総合機構)とは医師3名、薬剤師1名の人事交流を行った。また、治験教育・医師継続教育のeラーニング体制を整備したほか、臨床研究デザインワークショップ、臨床研究審査専門委員会ミニレクチャー、研究倫理審査専門委員会ミニレクチャーを開催した。</p> <p>⑤第二期がん対策推進基本計画に基づく、「がん診療に携わる医師・歯科医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」が一部改正されたことに伴い、がん診療拠点病院は、がん診療に携わる医師・歯科医師の9割以上が研修会を受講することとされており、今年度は医師が143名、歯科医師39名が受講し修了した。</p> <p>⑥医科では地域医療人育成センターおかやま(マスカットキューブ)及び医歯薬融合型教育研究棟4階シミュレーションフロア(MoMo Sim)を有効活用して、教育用超音波診断機器を用いて研修医、復職医の教育を実施し、シミュレーター教育を実施した。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<p>2)教育環境の改善として、臨床研修プログラムを更に充実させるため、地域枠学生を研修医として受入可能な新しいコースをプログラムに設けてスタートした。また、研修医のニーズに応じた施設の見直しを行い、医科研修部門では協力型病院として2病院及び研修分野として7病院の研修科を追加し、17病院を協力型病院から外し、歯科研修部門では、6施設を追加登録、5施設を削除した。</p> <p>3)研修医の処遇改善についての検討を行い、給与改善を平成28年4月実施の方向で調整している。</p>
②研究領域	自己評価
②-1 目標 研究面では、新医療研究開発センターを中心に、引き続き革新的医療技術拠点として、中央西日本臨床研究コンソーシアムを活用した、大規模な臨床研究や治験を実施する体制強化を進めるとともに、健康寿命延伸を目指した次世代医療を実現する。 また、研究に関する事務組織を一元化し、体制整備を効率的に進める。 さらに、引き続き倫理審査体制を維持し、学内の研究倫理に対する教育、研修の充実を図る。	<p>1)革新的医療技術拠点として、新医療研究開発センターを中心として、小児・稀少疾患難病等疾患別ネットワークを形成し、医師主導治験でなければ実施困難な研究の支援や、国際水準の臨床研究においては中国四国地方の基幹病院とのネットワーク(中央西日本臨床研究コンソーシアム)を活用し、大規模な臨床研究や治験を迅速に実施する臨床研究メガホスピタルを目指している。 8月には国立大学附属病院臨床研究推進会議中国・四国地区連絡会を開催して、臨床研究推進会議幹事会の報告等を行い、2月18日には国立大学附属病院臨床研究推進会議中国・四国地区連絡会を開催して、臨床研究推進会議総会・代表者会での報告等を行った。また、中央西日本臨床研究コンソーシアムポータルサイトについて、関連施設情報の共有化やコンテンツリンクの集約化などの改修を検討している。 橋渡し研究加速ネットワークプログラム事業においては、シーズ評価等に中四国の大学が参画するために内規等を改正し、所要の整備を行った。</p> <p>2)鹿田地区の研究に関する事務を一元化するため、臨床研究推進支援事務室と医歯薬学総合研究科学務課研究協力グループを統合して、研究推進課を新設した。</p> <p>3)倫理審査委員会迅速審査の過程において、早期承認体制を構築し、被験者に侵襲のない観察研究の審査にかかる時間短縮をはかり、研究開始を早期化した。研究倫理教育では講習会と並行して、新指針等に関する説明会を開催し、委員会委員には、ミニレクチャーを実施して、実践的な教育に努めたほか、eラーニングコンテンツの充実を行った。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	

③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
<p>③-1 目標</p> <p>1. 社会貢献面では、引き続き、岡山県が構築した地域医療連携システム「晴れやかネット」を利用し、前方支援及び後方支援連携の施設拡大を図り、地域の高度医療に対する要請に応える拠点医療機関としての機能を果たす。</p> <p>2. 診療面では、ロボット手術をはじめとした低侵襲医療や移植医療の拡充など先進医療を推進し、安心・安全な医療を提供して、引き続き「最後の砦」としての大学病院の役目を果たす。</p> <p>3. 運営面では、総合診療棟Ⅱ期の整備計画を進めるとともに、合理化、効率化に沿った取組みを進める。 また、病床稼働率の向上・安定化を図る。</p> <p>4. 国際貢献として、引き続き、ミャンマーなどに対し国際医療支援を行う。</p>	<p><社会貢献></p> <p>1) 地域医療連携システム「晴れやかネット」の運用を推進し、病診連携及び病業連携の充実を図るため、地域連携システムによるオンライン予約利用に関して、外来担当医に対してオンライン予約可能枠に対する調査を行った。また、逆紹介に関するシステムが完成し、運用を開始した。 地域歯科医療との連携においては、院内外の連携を「晴れやかネット」および「周術期医療での医科歯科連携」を組み合わせることの重要性が認識されたため、次年度に岡山県歯科医師会と岡山市歯科医師会と連携した講習会を設定して、院内外の連携を図ることとなった。</p> <p>2) 地域の高度医療に対する要請に応える拠点医療機関としての機能の充実として、次のことがあげられる。 ①メラノーマ(悪性黒色腫)に対する最新の病理・遺伝子診断法を組み入れた集学的治療を提供するため、皮膚科、放射線科等、関係診療科が協力して診療を行うメラノーマセンターを5月に設置した。</p> <p>②出生から成人に至るまでの一貫した治療が必要となる口唇裂・口蓋裂に対して、矯正歯科、口腔外科、形成外科、耳鼻咽喉科等が連携して診療を行う、口唇裂・口蓋裂総合治療センターを5月に設置した。</p> <p>③専門外来として、舌がん等のために舌の大半を手術で失った方のために開発・実用化した新しい人工舌装置による治療を行う「夢の会話プロジェクト外来」が9月から診療を開始した。 また、適切な治療が無いがん、抗がん剤が効かなくなったがん患者に対して、がん細胞の遺伝子異常を新しい技術で網羅的に検査し、医師を含めた複数の専門家によるチームが結果を検討・診断し、各々の患者に適した治療薬を見つけることを目指す、新しい専門外来「抗がん剤適応遺伝子検査外来」を12月に腫瘍センターに設置した。 さらに、津山中央病院と共同運用するがん陽子線治療センターと患者を結び、陽子線治療を実施した患者の定期的な診察を行う、「放射線治療・陽子線治療外来」を1月に開設した。</p> <p>④厚生労働省の造血幹細胞移植医療体制整備事業の対象施設に、中国地方で唯一認定された。</p> <p>⑤厚生労働省のモデル事業として岡山県が取り組む「てんかん地域診療連携体制整備事業」により、11月に岡山県からてんかんの診療拠点機関に指定された。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>医療収入、診療経費、病床稼働率</p>	<p><診療></p> <p>1) 総合診療棟に配置した血管造影装置併設のハイブリッド手術室や、最先端のCTやMRI、血管撮影装置、手術中にMRI撮影を可能とするオープン型のMRI装置などの最先端の医療機器を使用し、脳神経外科手術をはじめ心臓血管外科手術など高度な手術を行っている。 また、臓器移植では、肺、肝臓など、改正臓器移植法の全面施行後順調に実績を重ねており、肺移植では4月に世界初となる脳死・生体肺同時移植を成功している。現在までの主な実績として、肺が147例、肝臓が372例に達している。 さらに内視鏡手術ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた医療では、現在前立腺治療、腎切除、胃切除、子宮摘出と治療範囲を拡大し順調に実績を伸ばしており、現在までに前立腺治療438例、腎切除6例、胃切除12例、子宮摘出21例を実施している。12月には、国内初となる内視鏡手術ロボットによる自家腎移植に成功している。 本院では総合診療棟を中心に、これらの高度な医療を展開しており、今年度の手術件数は9,850件を見込んでいる。 その他、本院の特徴でもある遺伝子治療においては、REIC遺伝子治療(現在まで前立腺がん26例、悪性胸膜中皮腫3例)をはじめ、新たな腫瘍選択的融解ウイルス「テロメライシン」を用いた放射線併用ウイルス療法の臨床研究を実施している。</p> <p>2) 4月以降、院内の全死亡症例について、病院執行部が把握できる体制(デスクカンファレンス)を整備し、10月からは、医療事故調査制度法制化に先んじて、医療安全管理部において、これらの死亡症例を原則翌診療日までに把握管理できるシステムを構築し運用している。 また、10月より新規医療技術・医薬品等導入時の手続きについて、医療安全体制の充実を図る観点から、研究レベル毎の科学的・倫理的妥当性と実施の可否を審査する倫理委員会を具体的に定め、運用を開始している。</p>

<運営>

病院では、病床稼働率、診療費用請求額等の経営指標を迅速に把握して経営戦略会議で報告し、随時検証や対策を講じている。また、MBO(目標管理)については、平成26年度に引き続き、病院長ヒアリングを各診療科に加え各センターも含めて、6～7月に実施した。具体的には、各診療科等で立てた目標と執行部が示した目標値を基にヒアリングを行い、目標値の低い診療科についてはその理由を確認し、見直しを求めた。10～11月には中間評価を実施し、収益額(診療費用請求額から患者診療経費を差し引いた額)が、執行部が示した目標値に達していない診療科に対しては、現状や改善への取組状況の聞き取りを行った。更に2月には診療科等から最終的な自己評価を提出させ、経営戦略会議及び執行部会議で最終評価に向けての検討を行うなど、病院経営の向上に務めることとしている。

また、病院経営に影響する病床稼働率の向上にも注力し、病床マネジメントの仕組みとして一昨年度配置した病床管理担当者が中心となって病棟間の調整を引き続き行っており、昨年度配置した、各病棟の入退院の日程の備りを軽減し、入退院の判断・決定を行う医師(リンクドクター)と連携し、稼働率向上への改善に努めている。11月には病床運用の一層の促進を図るため、全診療科に対して「退院時決定を退院の2日前までに行う」、「待期患者の入院待ち日数を短縮して早期入院」を要請する取組みを行った。

病床稼働率は平成27年4月1日から平成28年2月29日までの累計が87.4%となっている。

<国際貢献>

1)臨床修練指導医等(コメディカルを含む。)の充実を図るため、臨床修練指導を行うのにふさわしい医学的な知識や指導能力、言語能力を持つ人材を「臨床修練指導医等適任者」として認定し、海外から臨床修練の申し入れがあった時も迅速に対応する体制を整備し、平成26年度には臨床修練指導医36名であったところ、平成27年度には臨床修練指導医等適任者64名を加えて100名が臨床修練を行える体制とした。

2)医科では、JICA支援による国立六大学ミャンマー医学教育強化プロジェクトにて、救急領域で医師2名の研修を行った。また、ミャンマー医学研究会にて、基礎系・臨床系領域や医学教育に関する講義による普及活動を行った。さらに、ミャンマー・日本形成再建外科育成プロジェクトにおいて、現地の医師への外科系手術指導支援を行った。その他、病院等でのミャンマー看護師研修支援を見据え、ヤンゴン看護大学と大学間協定を締結した。またヤンゴン第一大学、ヤンゴン第二医科大学とそれぞれ大学間協定を締結した。さらに、民間NPOや岡山県派遣事業を通して6名の医師等の研修を行った。

3)歯科では、ベトナムにおいて、ハイフォン医科大学病院に設立された国際歯科センターに補綴科より駐在常勤医師が派遣され、現地での医療技術の提供(現地邦人への医療提供と邦人企業への口腔保健活動を含む)と学生への教育実践が行われた。また、ミャンマーでは、ミャンマー歯科医師会ならびにヤンゴン歯科医学大学、マンダレー歯科医学大学が共催する辺境地での歯科保健活動に口腔がん検診のメンバーとして参加し、現地医療への貢献がなされた。

4)国際担当副病院長を委員長とする「診療に関するグローバル化WG」を立ち上げ、外国人患者受入れ等に関する体制整備の検討を行った。

また、昨年の病院ウェブサイト英語版の開設に続き、今年度は病院の英語版リーフレットを発行した。

【総括記述欄】

※管理・運営面についても検証した上で、今年度の達成状況を総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

平成27年度の組織目標の達成状況は、病院全体として優れたものであったと考える。平成27年度に新たに設置したメラノーマセンター及び口唇裂・口蓋裂総合治療センターは、地域との連携により円滑な運営が行われており、岡山県の中核を担う拠点病院としての役割を十分果たしていると言える。

遺伝子治療や臓器移植手術、また内視鏡手術ロボット手術においても順調に実施されており、移植手術では世界初となるハイブリット肺移植の成功や、内視鏡手術ロボットでは、国内初となる内視鏡手術ロボットによる自家腎移植に成功している。総合診療棟をフルに活用してこれらの高度な手術の実績を伸ばしており、今後は年間手術件数1万件以上を目標とし、「最後の砦」病院の使命を果せるよう努力する。

さらに、臨床研究品質確保体制整備事業では、小児・稀少疾患難病等疾患別ネットワークや、中国四国地方の基幹病院とのネットワーク(中央西日本臨床研究コンソーシアム)を活用し、着実に事業を推進するとともに、橋渡し研究加速ネットワークプログラム事業では、健康寿命の延伸を目指した次世代医療を実現するための体制整備を進めている。